

糸魚川市公共施設等総合管理指針

個別計画

分類：博物館等

- | | | |
|----|----------------------|------------|
| 第1 | 博物館等（フォッサマグナミュージアム等） | 1P（文化振興課） |
| 第2 | 博物館等（越山丸、マリンミュージアム） | 16P（能生事務所） |

平成31年2月

第1 博物館等（フォッサマグナミュージアム等）

1 施設一覧

(1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
ア	フォッサマグナミュージアム	1		1			
イ	長者ケ原考古館	1		1			
ウ	遺跡公園	2	1	1			
エ	史跡相馬御風宅	1					1
オ	歴史民俗資料館	2			1	1	
カ	塩の道関連施設	3	1	2			
キ	硬玉産地	2					2
ク	おくのほそ道の風景地親しらず	1		1			
ケ	フォッサマグナパーク	1		1			
	計	14	2	7	1	1	3

(2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

① 建物

面積単位：㎡

施設名称	代表所在地	建築年	延床面積	構造	階層	
ア	フォッサマグナミュージアム	一ノ宮 1313	1994 平 6	2,724.13	RC造一部S造	1
イ	長者ケ原考古館	一ノ宮 1383	1994 平 6	380.91	木造一部RC造	地上1 地下1
エ	史跡相馬御風宅	大町 2-10-1	1928 昭 3	330.91	木造	2
オ1	糸魚川歴史民俗資料館	一の宮 1-2-2	1977 昭 52	651.5	RC造	地上2 地下1
オ2	能生歴史民俗資料館	能生 7471	1980 昭 55	165.52	木造	3
カ1	塩の道白池便所、休憩棟	山口字白池	便所棟 1995 平 7 休憩棟 1996 平 8	便所棟 12.9 休憩棟 19.87	木造	1
カ2	塩の道山口便所	山口	1997 平 9	21.6	木造	1
カ3	塩の道大野便所、休憩棟	大野	1998 平 10	便所棟 23.27 休憩棟 16.52	木造	1

※ RC造：鉄筋コンクリート造 S造：鉄骨造

② 国指定史跡・天然記念物・名勝関係

名称		代表所在地	設置年	土地筆数	土地面積 m ²	備考
ウ1	長者ヶ原遺跡公園	一ノ宮 884-1	国史跡指定 1971 S46.5.27 開園 2001 H13.4.1	44	指定面積 136,331.8	国史跡
ウ2	寺地遺跡公園	寺地 2035	国史跡指定 1980 S55.12.5 開園 1988 S63		指定面積 2,793.49	国史跡
キ1	小滝川硬玉産地	小滝字川向	国天然記念物指定 1956 S31.6.29	5	指定面積 5,149.1	国天然記念物
キ2	青海川の硬玉産地	橋立 6565 ほか	国天然記念物指定 1957 S32.2.22		指定面積 28,220	国天然記念物
ク	おくのほそ道の風景地 親しらず	市振字入道ほか	国名勝指定 2014 H26.3.18		6,842	国名勝
ケ	フォッサマグナパーク	根小屋 2484-1	市天然記念物指定 1996 H8.8.27 設置 1990年	23	3,450	

2 現状と課題

(1) これまでの施設整備規模、配置状況

① 設置経過

ア フォッサマグナミュージアム

旧糸魚川市では、地域固有の自然資源や歴史・文化資源を活用した「まちづくり」を進めようと、昭和 61 年度から調査を開始し、昭和 62 年にフォッサマグナと地域開発構想、平成元年に博物館構想、平成 2 年に神話と越の国奴奈川の郷づくり基本構想を策定し、平成 4 年に建築工事に着手した。整備は、ふるさと創生事業（各自治体 1 億円）の一環として、また自治省の地域づくり推進事業の指定や新潟県の広域観光づくり事業の補助を受けて実施し、平成 6 年 4 月 25 日に開館した。

イ/ウ 1 長者ヶ原考古館／長者ヶ原遺跡公園

昭和 35 年 3 月に県の史跡、昭和 46 年 5 月に国の史跡に指定され、その後、美山丘陵地の開発に伴う野球場建設予定地の発掘調査により、さらに広い区域を保護する必要が生じ、60 年に追加指定された。それまでの大量の出土品は、他の市内遺跡の出土品とともに歴史民俗資料館地下収蔵庫や小学校の空き教室等を活用し、分散して保管してきた。

考古館はこれら出土品を包括的に収蔵展示する施設として整備し、平成6年にオープンした。さらに考古館に遺跡のガイダンス施設を兼ねた展示棟と埋蔵文化財センターを増築整備し、平成13年4月には遺跡公園とリニューアルした考古館を併せて公開した。

ウ2 寺地遺跡公園

ヒスイの玉を各地に供給した集落跡であり、木柱を伴う石敷など特殊な遺構の発見から、昭和47年3月に県の史跡、昭和55年に国の史跡に指定された。

本格的な調査は昭和40年代に都市計画事業である青海通り線の整備と宅地造成などに伴って行われた。その後、土地の公有化と保存整備がなされ、62年度に開園している。

エ/オ1 史跡相馬御風宅／糸魚川歴史民俗資料館

相馬御風が昭和25年に逝去すると、糸魚川町民はすぐに顕彰に立ち上がり、その業績と財産を後世に残そうと県内外から280万円の寄付金が寄せられ、町は県補助金を合わせ、相馬家の土地と建物、資料1万1千点を買収した。また、昭和27年に県は御風宅を史跡指定し、市は昭和30年から相馬御風宅を管理し「御風記念館」として資料展示を行い、観光客や研究者などの参観に供してきた。しかし、資料の盗難や火災を危惧する声次第に高まるなか、折しも糸魚川高等学校が一の宮から平牛に移転しており、その跡地を利用する形で糸魚川歴史民俗資料館が計画された。これも1,388万円の浄財が集まり、御風の資料を中心に市内で発掘されてきた埋蔵文化財、また歴史・民俗資料を収蔵し展示できる施設として、昭和52年5月に完工、翌月オープンした。

オ2 能生歴史民俗資料館

生活様式の急激な近代化によって、伝統的な建物や民具が失われつつあったことから、これらの保護を目的として雪国の農家独特の中門造りである中野口の民家を移築して、昭和55年にオープンした。

カ 塩の道 白池便所、山口便所、大野便所、各休憩棟

平成4年度から11年度まで8年間に渡って、文化庁の「歴史の道」保存整備事業として旧松本街道（塩の道）沿道の遺構の復元や、便所、休憩棟などの整備を行うなど、史跡の適正管理及び歩行者の安全性の確保に努めてきた。平成14年3月に「松本街道」として大野～仁王堂（約1.5km）・山口～白池（約3.5km）の区間が国の史跡に指定された。

キ 1 小滝川硬玉産地

ヒスイ原石の盗掘や無許可採掘が横行した時代があったものの、昭和 29 年 2 月に天然記念物として県指定、昭和 31 年 6 月に国指定を受け保護されてきた。以来、市は解説板や標柱等を設置して保護に努めていたが、平成 3 年に右岸側で大規模な地滑りが発生した。これを受けて平成 4 年から 5 年にかけて、国と県によって復旧崩落対策工事が実施され、来訪者の利便にも配慮した学習護岸等の施設が整備された。

平成 24 年度には保存管理計画、平成 25 年度には保存整備計画を策定し、これに基づいて監視カメラ及び解説板の設置と、原石の展示等を行っている。

キ 2 青海川の硬玉産地

昭和 32 年 2 月に国の天然記念物に指定され、保護されてきた。

旧町及び市は、平成 5 年の整備基本構想、平成 24 年の環境整備構想、平成 27 年の保存整備計画に基づき、案内看板、注意喚起看板など各種サイン、遊歩道や柵等の設置、広場や四阿等便益施設、監視カメラ等を設置して保存に努めてきた。しかし、原石の盗掘が相次いだことから、平成 11 年、下流部の 102 トンの岩塊を親不知の翡翠ふるさと館へ、同 12 年、上流部の 45 トンの岩塊を青海総合文化会館の前庭に移設した。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

古くは「神原（寒原・蒲原）」「神濟」と文献に記され、天険として知られていたが、松尾芭蕉が元禄 2（1689）年 7 月に同地を通過、市振に宿泊し、『おくのほそ道』に記したことから、より広く知られる存在となった。名勝として、昭和 49 年 3 月 30 日県指定、平成 26 年 3 月 18 日国指定となった。県指定後、天険親不知線や法面の改修や保護、四阿や看板等を整備してきた。

ケ フォッサマグナパーク

旧糸魚川市において、観光文化都市を標榜する中で「フォッサマグナ」をキーワードに設定し、糸魚川－静岡構造線を目視できる場所を求めた。

平成元年、最も存在が確実と思われた現在地を調査したところ、断層が確認できたことから整備を進め、平成 2 年にフォッサマグナパークを開園した。

平成 8 年、パーク内の「根知の糸魚川－静岡構造線露頭」「根知の枕状溶岩」の 2 件を市天然記念物に指定している。

② 整備規模

フォッサマグナミュージアムについては、市民利用のほか、市外利用を中心と考えていることから、類似博物館の規模を参考とした。年間 85,000 人の入場者を想定している。

このほか、糸魚川歴史民俗資料館は、延べ床面積が 651 m²で、資料館としては平均的な規模である。

その他の文化財や公園等は、整備規模を設定していない。

③ 配置状況

当該施設群は、建設に特殊な経過を辿っているものであり、それぞれ適切な場所に配置している。

ア フォッサマグナミュージアム

展示内容が似通っていた旧青海町建設の青海自然史博物館は平成 26 年 3 月末をもって閉館し、展示物等をフォッサマグナミュージアムへ移動・移管した。

市内唯一の自然科学系の「博物館類似施設」である。

イ/ウ 長者ヶ原考古館／長者ヶ原遺跡公園・寺地遺跡公園

考古館は市内遺跡全般のガイダンス施設であり、能生・青海地域に類似施設はない。

2つの遺跡公園はいずれも国指定史跡を保存・活用する公園で、能生地域には類似公園がない。

エ/オ 1 史跡相馬御風宅／糸魚川歴史民俗資料館

御風宅は歴史的偉人の旧居という特殊性から、青海・能生地域に類似施設はない。

糸魚川歴史民俗資料館は御風や木村秋雨に関する資料が収蔵展示品の 9 割以上を占め、実質的には文学資料館である。

オ 2 能生歴史民俗資料館

中門造の民家として公開している公共施設はほかにない。民具を展示している施設としては、糸魚川地域では木地屋の里民俗資料館（国指定文化財の一部展示）、塩の道資料館（国指定文化財の一部展示）、能生地域ではマリンミュージアム海洋があり、それぞれ特色ある資料を収蔵・展示している。青海地域に類似施設はない。

ほかに、民俗資料や民具等を収蔵展示する民間施設としては、早川筋に「おまんた館」（越川原）、「よってきないや館」（滝川原）、海川筋に「昔の農具・農機具にしようみ館」（旧南西海小学校 3 階）がある。

カ 塩の道 白池便所、山口便所、大野便所、各休憩棟

国指定史跡である松本街道（東回り塩の道）の便益施設であり、西回り塩の道（須沢～今井～小滝）に関しては同様の施設はない。

キ 小滝川硬玉産地、青海川の硬玉産地

両者ともにヒスイ原石を産出する国指定天然記念物であり、地域が限定される。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

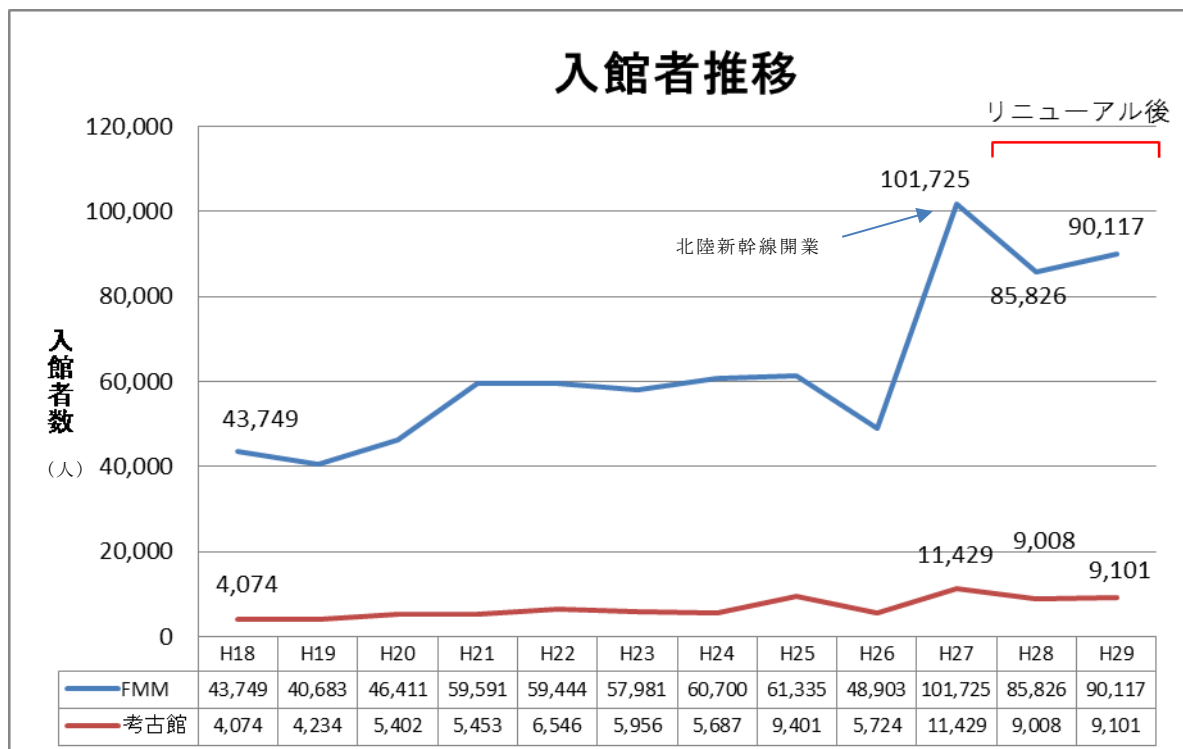
市内では各地域に芭蕉ゆかりのポイント（能生：玉や五良兵衛 糸魚川：早川、荒ヤ町 左五左衛門 青海：市振、玉木村、境川）はあるが、名勝指定は本件のみである。

ケ フォッサマグナパーク

市内に類似施設がなく、市内唯一の施設である。

(2) 主な利用状況

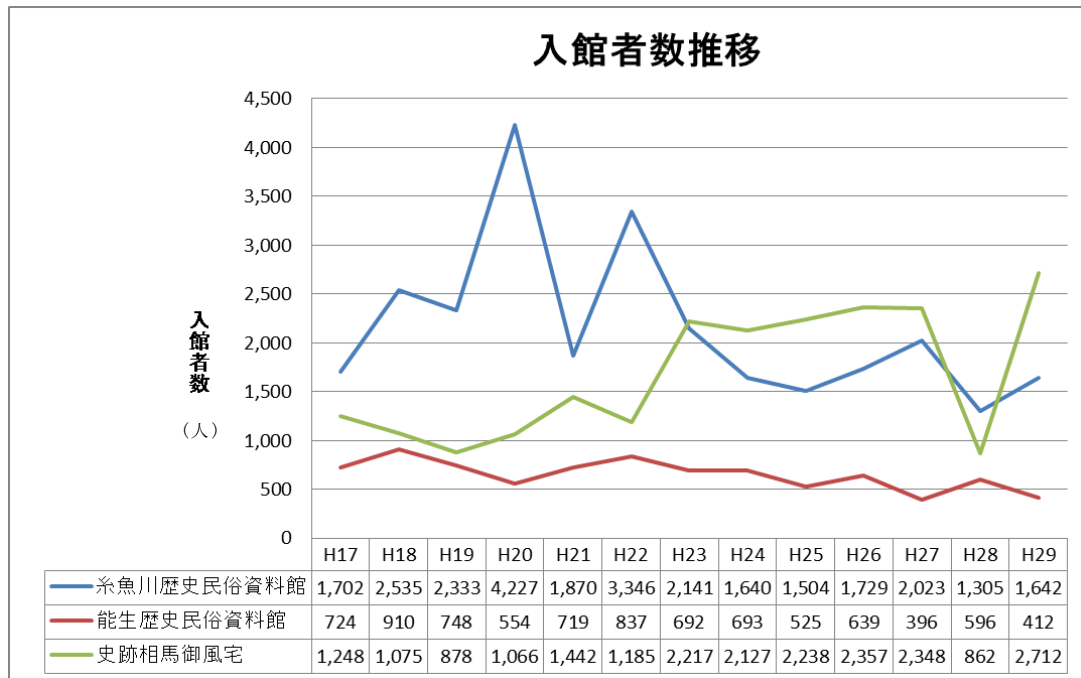
ア フォッサマグナミュージアム / イ 長者ヶ原考古館



- ・フォッサマグナミュージアムは、過去10年の年間利用者は概ね50,000人前後で推移し、北陸新幹線開業にあわせて行った平成27年3月のリニューアルオープン以降は、利用者が大きく伸びている。

- ・長者ヶ原考古館は、フォッサマグナミュージアムとの共通入館券の導入により、北陸新幹線開業後の利用者増が期待されている。

エ 史跡相馬御風宅 / オ 糸魚川歴史民俗資料館・能生歴史民俗資料館 単位：人



- ・史跡相馬御風宅は平成 23 年以降は増加傾向にある。市民茶会の会場として利用されていることや、イベントに合わせた夜間公開などにより入館者が増えたことに加え、北陸新幹線開業の効果があると考えられる。
- ・糸魚川歴史民俗資料館は、年間利用者が概ね 2,000 人前後で推移し、やや減少傾向にある。
- ・能生歴史民俗資料館は、年間利用者が概ね 500 人前後と少ない。

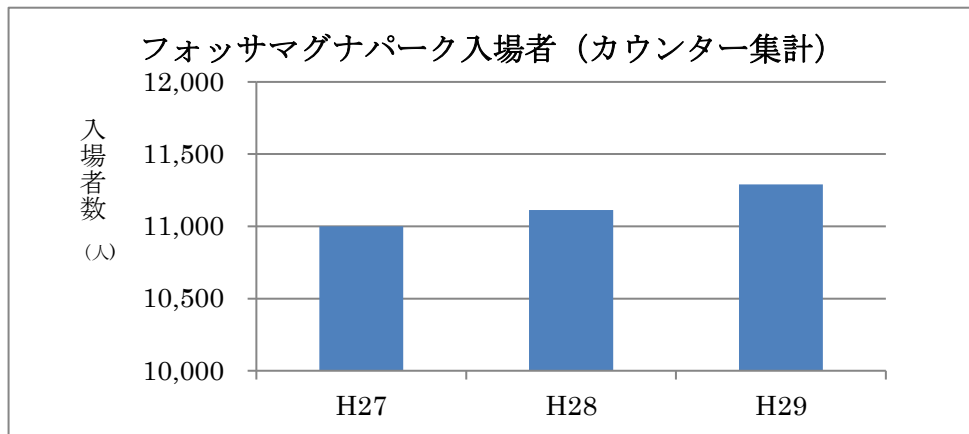
キ 1 小滝川硬玉産地

6 月上旬～11 月上旬の土日祝日の来訪者のみのカウント 単位：人

H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
6,814	8,263	6,953	5,288	4,422	5,443	4,181	4,362

- ・減少傾向にある。

ケ フォッサマグナパーク



(参考) 設置場所 国道 148 号側入り口のみ。農村公園側からの入込は不明。

※カウンター数÷2×1.3

1.3 は二人並んで通過した場合は 1 カウントになるため、誤差修正係数。

1.3 の係数は FMM で実験計測したデータに基づき算出。

H29 年度はリニューアル工事のため 10 月 20 日閉園。(通常は 11 月末閉園)

(3) 課題

ア フォッサマグナミュージアム

糸魚川ユネスコ世界ジオパークの中核施設としての役割を担うべく収蔵機能の強化や展示の計画的な更新が必要となる。

また、平成 28 年 9 月に、日本鉱物科学会によりヒスイが国石に選定されたことを受け、周知のための更なる広報活動を行い、教育活動や交流人口の拡大に努める必要がある。

イ/ウ 1 長者ヶ原考古館／長者ヶ原遺跡公園

国石ヒスイの周知を進めるため、ヒスイ文化に関わる展示・解説の充実が必要である。

開発等に伴う発掘調査の出土品等により、収蔵スペースの確保が困難になっており、特に低湿地出土の木製品などの収蔵場所の確保が課題である。

ウ 2 寺地遺跡公園

復元建物等の主要部は木製等であることから、劣化状況の確認、適切な修繕等を随時要する。

住宅や鉄道敷地に隣接することから、公園内の草刈り、垣根や高木の剪定などの公園用の管理を要する。

エ 史跡相馬御風宅

平成 28 年度に耐震、大火、復原工事を行ったことから、今後は活用に重点を置く。

オ 1 糸魚川歴史民俗資料館

築 40 年を越え、展示設備や照明設備が老朽化し、現代に求められている機能を備えていない。

一方で、収蔵品は増え続けており、収蔵庫のスペース不足が課題である。

オ 2 能生歴史民俗資料館

入館者数（入館料）と管理運営費のバランスが課題である。

茅葺の大屋根の老朽化による雨漏りもあるが、葺き替えには多額の費用を要するため、応急措置を繰り返している。

建物は旧農家の造りだが、漁師や商家の道具類も混在して収蔵展示され、テーマの統一性に欠けるなどの課題がある。

カ 塩の道 白池・大野・山口 便所・休憩棟

いずれも積雪や凍結による被害が頻繁に発生している。

キ 1 小滝川硬玉産地

保存整備計画に基づき監視カメラ等の整備を実施しているが、国石選定によりヒスイが注目を浴びており、盗難や採取に対して今まで以上に対策を講じる必要がある。

地すべり地形であり、河床の変動の定期的観測やフトンカゴ護岸下部の洗掘部分の保護が将来的に必要である。

※その他、平成 24 年度策定「小滝川硬玉産地保存管理計画」、平成 25 年度策定「小滝川硬玉産地保存整備計画」参照。

キ 2 青海川の硬玉産地

指定地周辺は「橋立地すべり防止区域」で小規模な変動があるほか、急斜面での崩壊も所々で発生しており、土砂の流出も多い。

ヒスイの国石選定により、盗難や採取に対して今まで以上に対策を講じる必要がある。

指定地外に存在する硬玉原石も本天然記念物の本質的価値を有することから、保護と保存に配慮するとともに、必要に応じて指定地の追加指定も検討する必要がある。

上流指定地へのアクセスは悪路となっている。

※その他、「青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊保存管理計画」付録「現状と課題」一覧参照。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

芭蕉が見たであろう景観を有する第一世代の道である汀が浸食されている。

日本海の沿岸沿い特有の強風、塩害の影響を受けやすく、各種便益施設に経年劣化が認められる。

※その他、平成 28 年度策定「保存活用計画」「整備基本計画」記載の現状と課題を参照。

ケ フォッサマグナパーク

施設利用者の安全確保を図るため、日常点検のほか、今後も施設の戦略的かつ計画的な改修、維持管理等を進める必要がある。

3 分析と評価

(1) 総合管理指針による分析と評価

いずれの施設も、条例上の設置目的は市民の教育、学術及び文化の発展、醸成等であるが、扱う資源が当市独自のものであることから、対外的な市の知名度向上、交流人口の拡大に貢献してきたところである。これは指定文化財の便益施設も同様である。

糸魚川ユネスコ世界ジオパークの拠点施設や、指定文化財とその便益施設については、文化財（史跡・名勝・天然記念物）という特性から集約化、複合化、機能移転、統合はできないものとする。このため、施設ごとにマネジメントによる効率的・効果的な管理を行う必要がある。

糸魚川歴史民俗資料館と能生歴史民俗資料館の機能は、将来的に集約化が可能である。

(2) まちづくりとの関係

まちづくりという点では、直接的な関係は薄いですが、いずれの施設も、郷土の歴史と文化、独自資源に対する市民の関心を高め、地域への愛着を育む施設として未来においてもその役割を期待されている。

(3) 利用者の動向

ア フォッサマグナミュージアム

平成 27 年 3 月のリニューアル及び北陸新幹線開業等により利用者は増加傾向にある。さらに、ヒスイの国石選定を受け、今後も一層利用者が増加する可能性がある。

イ/ウ 1 長者ケ原考古館／長者ケ原遺跡公園

フォッサマグナミュージアムと同一エリアにあり、利用者の動向も同じ傾向にある。また、長者ケ原遺跡公園は新幹線開業の平成 27 年からクラフトフェアの会場と

して使用されるなど活用の幅を広げ、遺跡を意識しない来園者も増える傾向にある。

ウ 2 寺地遺跡公園

地域巡見や目的を持った来園という利用が予想されるが、人口減少とともに利用者は減少するものと推測する。

エ/オ 1 史跡相馬御風宅／糸魚川歴史民俗資料館

御風宅は市民茶会や夜間開放等により平成 23 年度から入館者が増加し、新幹線開業効果もあって入館者は増加傾向にある。なお、来館者の市内、県内、県外の比率は同程度である。近年では美術家や工芸家から作品展示会場として利用希望があり、新しい活用方法として検討中である。

糸魚川歴史民俗資料館は、収蔵展示資料が専門的で、若年層の利用が少ない傾向にある。近年では富山や長野の旅行代理店による高齢者向けツアーでの利用が増えはいるが、全体的に利用は低調である。

オ 2 能生歴史民俗資料館

全体的に入館者は少ない。イベント時のみの入館利用が目立つ。

カ 塩の道 白池便所、山口便所、大野便所、各休憩棟

自然体験、健康志向、古道への興味は高まっているようだが、これら便益施設の利用者は過去のブーム以上の人数は見込めない。

キ 1 小滝川硬玉産地

来訪者は、近年では平成 23 年をピークに減少傾向にあるが、ヒスイの国石選定と関連づけて PR することで、より多くの来訪が期待できる。

キ 2 青海川の硬玉産地

ヒスイ原石を見学できる上流部は、ゲートの存在と急峻な進入路のため、一般のアクセスは難しく、ジオパークガイドや学芸員などの同伴による利用がほとんどである。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

芭蕉関連の観光名所であり、もともとの根強い人気に加え、旧親不知トンネルを歩くことができるという新しい魅力を加えたことにより、若年層など「おくのほそ道」への関心が低い層の来訪が感じられる。

ケ フォッサマグナパーク

フォッサマグナパークは、平成 30 年の断層面展示リニューアルにより、利用者は増加するものとする。

また、フォッサマグナミュージアムとの相乗効果で利用者増加が期待できる。

4 整備方針

(1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

文化財の特徴から、特段規模や配置の標準規模はないが、整備時の状況及び財政状況を加味しており、現状では適正規模、適正配置といえる。

ただし、民俗資料や民具等の展示収蔵施設は、収蔵物が増える一方で、管理面から施設の集約が望まれる。

記念物（史跡、天然記念物、名勝）の公開、利用のための施設は、記念物の指定範囲が拡大することにより、適正とされる現状以上の規模が求められる可能性をもっている。（例えば、遺跡付近の指定地外から非常に重要な遺物や痕跡が発見される場合など。）

(2) 整備に関する基本的考え方

ア フォッサマグナミュージアム / イ 長者ヶ原考古館

糸魚川ユネスコ世界ジオパークの中核施設としての役割を担うべく計画的に更新をしながら、当面現状を維持していく。

ウ 遺跡公園

復元建物や露出展示施設などは概ね 20 年ごとの更新が必要であるが、状況に応じた対応を検討する。

エ 史跡相馬御風宅

御風宅の県文化財の指定分野は「史跡」ではあるが、建物部分も史跡の構成要素である。90 年が経過するなかで、建造物としても文化財としての価値を有しはじめてきた。平成 28 年度に耐震、大火、復原工事を行った。当面は大規模整備は不要であり、今後は活用に重点を置く。

オ 1 糸魚川歴史民俗資料館

築 50 年となる 2027 年までにリノベーションすることを目指す。それまでの間、増え続ける収蔵資料の保管場所として、他施設の利用を考慮する。

オ 2 能生歴史民俗資料館

単体としての存続が様々な面から困難となることが予想されるため、民俗資料や

民具等を収蔵展示する他の類似施設との統合（例示：文化財センター）を検討する。
施設自体は、転用した上での活用や、処分を含めた今後の在り方を検討する。

カ 塩の道 白池便所、山口便所、大野便所、各休憩棟
経年による老朽化等に都度対応、修繕を行う。

キ1 小滝川硬玉産地

今後の整備も、平成24年度策定「小滝川硬玉産地保存管理計画」、平成25年度策定「小滝川硬玉産地保存整備計画」に基づき行うこととする。

【保存管理の基本方針】

- ・硬玉（ヒスイ）産地としての価値を損なわない。
- ・指定地外においても本質的価値を尊重する。
- ・周辺環境（地形や地質、動植物等）を含めて一体的に保全する。
- ・学習や観光の拠点として活用を図る（周辺の観光拠点との連携）。

【整備・公開の基本方針】

- ・指定地の毀損や滅失を防ぐため、護岸の整備や補修を行う。
- ・来訪者がヒスイを間近で見学できるというロケーションの価値を最大限に活用するとともに現地での安全に配慮する。ただし、盗掘や採取への対策措置に努める。
- ・整備計画では将来整備目標として、兩岸の遊歩道、河川横断用飛び石、鉄橋、左岸側広場、親水空間、大型バス用駐車場、護岸保護を挙げている。

キ2 青海川の硬玉産地

平成23年度策定「青海川の硬玉産地環境整備基本構想」、平成26年度策定「青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊保存管理計画」に基づき、今後は整備計画を策定予定である。

※「保存管理計画」巻末付録の「整備基本構想」「サイン整備構想」参照。

【保存管理の基本方針】

- ・硬玉（ヒスイ）産地としての価値を損なわない。
- ・指定地外においても本質的価値を尊重する。
- ・周辺環境（地形や地質、動植物等）を含めて一体的に保全する。
- ・学習や観光の拠点として活用を図る（周辺の観光拠点との連携）。

ク おくのほそ道の風景地親しらず

平成28年度策定「保存活用計画」、平成29年度策定「整備基本計画」に基づき整備を行う。※「整備基本計画」の整備方針を参照。

【整備方針】

- ・整備項目を短期と中長期計画に区分し、利用者の安全性・利便性を確保すべきも

のや実現可能なものを短期、実施に向けて経過観察を行う必要があるものや関係機関協議を要するものなど準備を整えていくべきものを中長期計画で行うこととしている。

ケ フォッサマグナパーク

フォッサマグナパークは、当市の特徴であるフォッサマグナを示す独自性を持った施設であり、適正規模、適正配置の概念は当てはまらず、日本の貴重な資源として適切に保護、活用を図っていく必要がある。

また、今後、大規模改修が必要になった場合には、当該施設は特殊な施設であることから、状況に応じた見直しを行うものとする。

5 その他

第2次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

博物館施設の充実と活動の推進

- ・ジオパークの拠点施設であるフォッサマグナミュージアムにおいて、糸魚川の貴重な自然資源や資料について研究・収蔵し、分かりやすく情報を発信します。
- ・フォッサマグナパークは、郷土の大地の成り立ちについて理解を深めるために欠かせない自然資源であり、地域の活性化も視野に入れて保存と整備を行います。

文化財の保存と活用

- ・解説板及び標柱等の整備により、文化財に対する市民の理解を深めるとともに、適正な保存管理や周知・活用を図ります。
- ・埋蔵文化財の適正な保存を図るため、調査成果を広く市民に公開し、埋蔵文化財に対する市民の理解を深めます。

文化財収蔵・公開施設の整備

- ・文化財を適正に保存・活用するため、展示等や管理運営方法を見直し、既存の施設を有効活用するとともに、施設整備を検討します。

6 平成 31 年度から平成 40 年度までの想定修繕計画

単位：千円

スケジュール						
施設／年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024～ 2028
	平成 31	平成 32	平成 33	平成 34	平成 35	平成 36～ 平成 40
フォッサマグナ ミュージアム	常設展示室改修 700 駐車場修繕 200 多言語案内シス テム 3,300	博物館躯体 等修繕 3,000 多言語案内 システム 3,000	常設展示室 改修 3,000 博物館サイ ン等改修 3,000	常設展示室 改修 900 博物館躯体 等修繕 2,000	展示プロジェ クター更新 5,000 博物館躯体等 修繕 2,000	展示ケース照 明更新 8,000 博物館躯体等 修繕 1,000
長者ヶ原考古館	—	文化財セン ター基本・実 施設計 5,000	文化財セン ター建築工 事 200,000	文化財セン ター設備・展 示工事 200,000	—	〃
糸魚川歴史民俗 資料館	トイレ壁面改宗	—	—	—	—	〃
能生歴史民俗資 料館	(休館、資料整理)	(休館、資料 整理)	(取り壊しの 検討)	—	—	〃
長者ヶ原遺跡公園	園路等の改宗	—	—	—	—	〃
寺地遺跡公園	樹木の剪定	—	—	—	—	〃
塩の道白池便所等	白池トイレ建設 工事 山口番所土地公 有化・実施設計 20,910	—	松本街道保 存活用計画 策定 2,160	松本街道閑 連遺跡調査 1,000	—	〃
塩の道山口便所等	—	山口番所遺 構表示工事 2,490	—	—	—	〃
塩の道大野便所等	—	—	—	—	—	〃
史跡相馬御風宅	—	—	—	—	—	〃
小滝川硬玉産地	—	—	—	—	—	〃
青海川硬玉産地	—	—	整備基本計 画策定 基本設計 一部工事 5,000	実施設計 解説板設置 導入路改修 10,000	駐車場整備 監視カメラ設置 整備計画書発 行 10,000	〃
名勝親しらず	保存整備工事 20,000	保存整備工 事 20,000	—	—	—	〃
フォッサマグナ パーク	—	モニュメン ト工事 10,000	枕状溶岩展 示改修実施 設計 5,000	枕状溶岩展 示改修工事 40,000	仁王堂側駐車 場改修工事 12,000	解説板・案内板 設置工事 2,900
計	45,110	43,490	218,160	253,900	29,000	11,900

※上記の計画は、平成 30 年度における総合計画実施計画や予算編成等の調整前の検討資料
である。

第2 博物館等（越山丸、マリンミュージアム）

1 施設一覧

(1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
博物館等	2		2				

(2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

施設名称	代表所在地	建築年 (経過年数)	延床面積 m ²	構造	階層
海の資料館越山丸	能生小泊 3596-10	1980 S55 竣工 (38年)、1996 H8 設置(22年)	414.96	鋼船	地上4 地下2
マリンミュージアム海洋	能生小泊 3596-4	1998 H10(20 年)	453.75	木造	地上2

2 現状と課題

(1) これまでの施設整備規模、配置状況

① 設置経過

ア 海の資料館「越山丸」

平成6年度で廃船となった新潟県立海洋高等学校（旧能生水産高等学校）の実習船・越山丸（昭和55年8月竣工）を旧能生町が譲り受け、能生海洋公園内に陸揚げし、改装後、資料館として平成8年から展示している。

平成13年度及び18年度に外部全塗装を実施したほか、平成25年度にデッキ改修工事、平成29年に外部塗装とデッキ及び船内の改修工事を実施している。

イ マリンミュージアム「海洋」

平成10年に県立海洋高校の100周年を記念し、学校関係者及び旧能生町により海洋公園内の越山丸に近接した場所に資料館を建設したものである。

なお、能生海洋公園と道の駅マリンドリームは、北陸自動車道整備に伴う残土活用事業として整備された経過から、両施設は道の駅の運営主体である株式会社能生町観光物産センターが指定管理者として管理している。

② 整備規模

ア 海の資料館「越山丸」

漁業実習船として利用されていた越山丸をそのままを展示することにより、貴重な資料としての越山丸に触れてもらうことを目的としており、整備規模の設定はない。

- ・ 鋼船 1 隻 長さ 49.90m、幅 8.40m、深さ 3.75m、総トン数 437.41t
平成 8 年度越山丸設置工事 34,806 千円、船内外演出展示工事 29,685 千円、総額 64,491 千円。

イ マリンミュージアム「海洋」

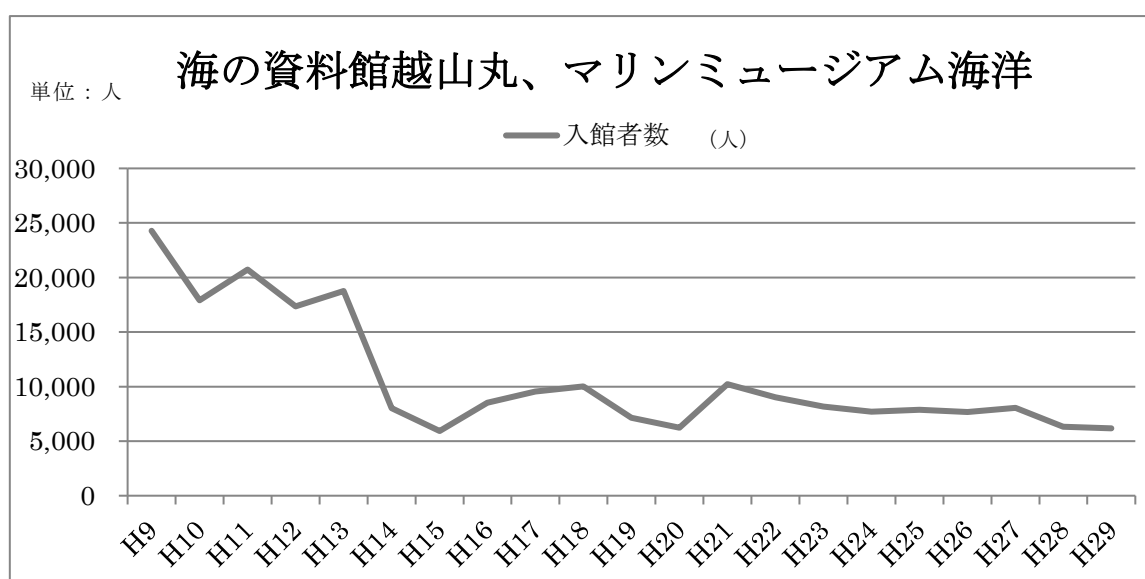
マリンドリーム能生 2 階に展示されていた、北前船模型資料と海洋高校の所有資料、能生地域の漁業資料の展示に併せて、能生地域で行われている「奴奈川大ウスまつり」で使用する大ウスを収納、展示することを目的とした施設規模である。

- ・ 木造 2 階建(建築面積 302.72 m²、延床面積 453.75 m²)
平成 10 年度建築工事 60,900 千円、電気設備工事 6,640 千円、うす櫓台車製作工事 2,460 千円、資料館展示工事 27,000 千円、キャプテンハウス建築工事 30,900 千円(平成 8 年度建設)、総額 127,900 千円。

③ 配置状況

能生地域の漁業の歴史をアピールする市内唯一の施設として、能生海洋公園内に配置している。

(2) 利用状況



平成 9 年度の開設当初から平成 13 年度まで、2 万人前後の入館者で推移し、順調であったが、その後入館者は減少傾向である。

(3) 課題

越山丸は、鋼船のため老朽化が激しく、安全面と費用面から考えると今後の大規模改修は難しい。

マリンミュージアムは、大ウスが収納されている木製の大扉は大規模な改修が必要となっており、具体的な改修方法の検討が必要である。

なお、海洋高校の歴史的な資料が展示されている施設のため、今後の方向性については、海洋高校や同窓会組織との調整が必要となる。

3 分析と評価

(1) 総合管理指針による分析と評価

海洋高校や、能生地域の漁業の歴史を伝える資料の展示施設となっているが、現状は利用が減少して効果が薄れている。

しかし、展示物は海洋高校や地域の貴重な財産であるため、海洋高校や同窓会組織等と協議しながら、展示方法の見直しや必要最小限の修繕を行い、将来的に当該施設がどうあるべきか関係者と協議し、必要に応じて展示施設に関する計画を策定する必要がある。

(2) まちづくりとの関係

能生水産高校から海洋高校に至る歴史的資料と奴奈川大ウスまつりで使用されている日本一の大ウスを展示しており、マリンドリーム全体が能生地域のシンボリックな施設となっており、その区域に当該施設がある。

(3) 利用者の動向

平成 14 年頃から利用者が減り、近年は横ばいであったが、平成 28 年度は、さらに減少傾向が見られた。

このことから平成 29 年度に越山丸の外部塗裝修繕を行い、指定管理者と海洋高校との連携企画として、マリンミュージアム海洋を利用した出前水族館「まなびリウム」が夏休み期間に開催され、入館者数は若干の回復の兆しがある。

しかし、夏の天候に大きく左右されるため、展示内容の大幅な見直しや修繕を行わなければ、入館者数の減少が続くと分析する。

4 整備方針

(1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

能生地域が漁業の町としての歴史をアピールする市内唯一の施設として、現状の規模及び配置は、最適である。

(2) 整備に関する基本的考え方

両施設とも能生地域のシンボリックな施設である道の駅マリンドリームの一角にあることから、全体として効果を果たすよう設置されているが、その一方で安全対策、費用対効果の面から、根本的な大規模改修は難しい。

このことから、当面は適切な維持修繕に努めるが、今後は整備経過に配慮する中で新たな取組みを検討していくこととする。

5 平成 31 年度から平成 40 年度までの検討計画

スケジュール						
年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ~ H40
内容	施設は老朽化が進んでおり、能生海洋公園全体の整備計画を立てる中で、あり方を検討する。					

例として

- ・ マリンミュージアム『海洋』大ウス格納庫大扉取替修繕
- ・ 海の資料館『越山丸』外部塗装とデッキ及び船内の改修工事（4～7年周期で実施）が想定される。